



「個別最適な学びとは」

2020年度から完全実施された現行の指導要領における3つの柱のうちのひとつに「主体的・対話的で深い学び」があります。これは、子どもたちの「生きる力を育む」ために「何を学ぶか」だけではなく「どのように学ぶか」という視点を大切にしたものになります。この学びの実現において、現在注目されているのが、「個別最適な学び」です。

「個別最適な学び」とは、子どもたちがもつ個性や興味、そして学びのペースを大切にする学び方です。「なぜだろう」「もっと知りたい」という気持ちを学びの入り口として、それぞれに合った学び方で、深く、そして楽しく探求していく学習の進め方を「個別最適な学び」と言います。例えば、算数の問題を解くとき、得意な人はどんどん難しい問題にチャレンジできます。少し難しいと感じる人も、自分のペースでじっくりと理解を深めることができます。国語の物語を読むときには、自分の興味のあるテーマの本を選んだり、表現方法を工夫して感想を伝えたりすることができます。

これまでの学校は、集団による一斉指導の形態で学習を進めることが基本とされてきました。しかし、これからの学習は個に寄り添った学びも大切になります。それに伴い先生にも、「学びのコンシェルジュ」としての役割が求められるようになります。「学びのコンシェルジュ」とは、一人ひとりの進捗を見守りながら、必要なヒントを出したり、さらに学びを深めるためのアドバイスをしたりすることを言います。また、タブレットなどのICTも活用しながら、子どもたちの「学びたい」という気持ちを最大限にサポートすることも含まれています。

「個別最適な学び」を通して、子どもたちは自分で考え、主体的に学ぶ力を身につけることができます。それは、これからの未来を生きていく上で、とても大切な力となります。

保護者の皆様におかれましても、「個別最適な学び」の構築に向けて、ご家庭でのお子さんの興味関心についてお話を聞いてみてください。それらの情報を学校と共有しながら、共に子どもたちの成長を支えていければと考えます。

昨年度よりお伝えしてきました「学習評価二期制」の導入に伴う評価方法の見直しとともに、新しい学びの構築も進めてまいります。今後も子どもたちの無限の可能性を信じながら教職員一同、全力でサポートしてまいります。

校長 高岡 繁樹